

慈恩寺 Times

第21号

【発行】

寒河江市教育委員会 生涯学習課

【発行日】

平成 28 年 7 月 20 日 (水)

【問合せ・ご意見等】

寒河江市教育委員会 生涯学習課 歴史文化係

TEL: 0 2 3 7 - 8 6 - 8 2 3 1

E-mail : shogaku@city.sagae.yamagata.jp

史跡慈恩寺旧境内の保存活用計画作りが進行中

史跡慈恩寺旧境内ゾーニング(案)

- Aゾーン：本堂・三重塔境内他
- Bゾーン：重要遺構の存在する地域
- Cゾーン：院坊平場群・
人々が居住する地域
- Dゾーン：耕作地・山林
- Eゾーン：景観保全ゾーン



上：現在の慈恩寺
(西行戻しの涙坂(高松)から)
※写真中央の木々の両脇に
本堂周辺堂舎が見える

右：「羽州瑞宝山慈恩寺之景」
明治 35 年(1902)
※仁王堂坂から山王台までの
一山の修景がうかがえる



前号でお伝えしたように、史跡慈恩寺旧境内保存活用計画の策定が進んでいます。その一部をご紹介します。

■ゾーニングについて

史跡内は堂舎や屋敷地、山林など土地により利用方法が異なりますので、ゾーン分け(ゾーニング)をしています。ゾーニング案は左上のとおりです。

A～Dゾーンは史跡指定地で、Eゾーンは史跡指定地外です。Aゾーンでは史跡の保存を最優先し、Cゾーンでは居住区域のため、日常生活との共存を図れるようにしようと考えています。

また、Eゾーンは慈恩寺の眺望や調和に関わる場所として、配慮を求める区域とする議論がされています。

■視点場について

史跡指定にあたり、慈恩寺は江戸時代以前の姿が良好に残っていると評価されました。現存する絵図には慈恩寺の一山寺院としての姿が良く残っています。これをもとに、一目で史跡慈恩寺旧境内とわかる景観を示すため、視点場の設定をしています。

例えば左の写真の位置からは、慈恩寺を正面からとらえられますが、本堂や三重塔は杉木に隠れています。

現在の慈恩寺の修景に関わるものとして、上記のゾーニングと併せて議論しています。

史跡慈恩寺旧境内
関連事業



各種調査事業
総合報告書作成
文化庁へ
指定具申書提出

文化庁が
文化審議会へ諮問

文化審議会が文部
科学大臣へ史跡指
定答申

文部科学大臣による
国史跡指定
(官報告示)

保存活用計画策定
整備計画策定

整備事業開始



朱印地と朱印蔵

慈恩寺は、江戸時代に幕府から東北最大の約2,812石(1石=約180ℓ、約150kg)の寺領を認められました。この寺領が慈恩寺の経済基盤でした。

寺領は、朱色の押印がある「朱印状(しゅいんじょう)」によって認められたので、朱印地ともいいます。この朱印状を保管していたのが、朱印蔵です。

慈恩寺の朱印蔵は、本堂の北東にありました。朱印状は、この蔵の中で葵の御紋入りの箱に大切にしまわれ、毎年7月7日には本堂で虫干しされました。

明治時代になり、政府により朱印地は没収されたため、朱印蔵は役目を終えました。現在では、石段と石垣が残り、往時をしのばせます。



朱印蔵(「瑞宝山慈恩寺之図」明治35年)



現在の朱印蔵跡



梱包作業の様子

会期9月4日まで。

会場は、大統領官邸やトレビの泉が近接するローマ市中心部のクイリナーレ宮美術館です。

選ばれたこのことです。

「日本仏像展」には、35点が出品されます。出品にあたっては、動きのある像が海外でも受け入れられやすいので、選

び返しながら木製の土台に固定し、大切に包んでいました。当日は、薬師堂の公開を中止して梱包作業が行われました。搬送中に壊れないよう、専門スタッフが何度も微調整を繰り返しながら木製の土台に固定し、大切に包んでいました。

7月29日からイタリアで開催される「日本仏像展」に向け、6月13・14日の両日、十二神将4躯が搬出されました。当日は、薬師堂の公開を中止して梱包

十二神将イタリアに向け搬出

一切経会開催 太平楽新調甲冑を初披露

5月5日、慈恩寺最大の行事「一切経会」が行われました。今年は一切経会のうち、舞楽では破損等により昨年度新調した太平楽の甲冑が初めて一般に披露されました。

この太平楽が、第58回北海道・東北ブロック民俗芸能大会に山形県代表として披露することが決定しました。大会は、10月29日(土)に岩手県民会館(盛岡市)で開催されます。



太平楽

新刊紹介

寒河江市史 民俗・生活編



戦後から昭和50年代にかけての寒河江の民俗や暮らしをとりあげています。慈恩寺の舞楽や行事も掲載しています。ぜひ、ご一読ください。

頒布価格 3000円

頒布所 文化センター 松田書店
市内各地区公民館